

厚生環境委員会・県外視察報告

1 調査日

令和6年8月5日（月）～令和6年8月7日（水）

2 出席委員等

澤崎豊 委員長、大井陽司 副委員長、光澤智樹 委員、種部恭子 委員、井加田まり 委員、奥野詠子 委員、山本徹 委員、五十嵐務 委員
（その他、執行部が参加）

3 調査の概要

○令和6年8月5日（月）

（1）シェルターインクルーシブプレイス コパル

調査項目：こども施設、子育て環境の整備について

応 対 者：コパルスタッフ

内 容： シェルターインクルーシブプレイス コパルは、大型遊戯場、体育館、子育て相談コーナーなどを備えた屋内施設に加え、屋外には、親水広場などのスペースのほか、障がいの有無に関わらず遊べるよう、車いす用ブランコなどの遊具を備える。

スタッフに館内案内をしていただきながら施設内を見学した。



集合写真



館内案内の様子

（2）山形県議会

調査項目：介護職の魅力向上、外国人介護人材について

応 対 者：健康福祉部高齢者支援課

内 容： 山形県では、介護人材の魅力を発信するため、出前講座やイベントを開催するほか、一般社団法人「KAiGO PRiDE」と連携し、介護職員のプロの技術と内面を実感できる動画を制作した。動画はYouTube上で公開するなど、介護職のイメージアップが図られるよう活用している。

また、令和5年4月には外国人介護人材支援センターを設置し、外国人介護人材が定着するよう事業を実施している。

当日は、担当課から、事業概要について説明を受けたほか、YouTube 上で公開されている動画を視聴した。



集合写真



概要説明

○令和6年8月6日（火）

(1) 仙台市議会

調査項目：東日本大震災時の動物救護活動と課題について

応 対 者：仙台市動物管理センター

仙台市危機管理局減災推進課

内 容： 東日本大震災発災前の動物救護に係る取組内容から、発災直後の状況、被災動物救護対策本部設置後の被災動物救護活動の内容、及び救護活動に携わった関係者が感じた課題や今後の対策について説明を受けた。

また、避難所運営マニュアルにおけるペットの取り扱いについて説明を受けた。



概要説明

(2) 東松島市議会

調査項目：東松島市災害廃棄物処理事業について

応 対 者：市民生活部市民生活課、復興政策部SDGS・脱炭素社会推進課

内 容： 東日本大震災で被災した際、東松島市内では約 325 万 t の災害廃棄物が発生した。これは平時の一般ごみで換算すると 300 年分以上に達する量であったが、そ

の処理を3年で完了させた。また、被災者を中心とした市民を雇用し、災害廃棄物を手作業で分別することにより、災害廃棄物のうち99.22%をリサイクルしたほか、処理単価は県平均の半額以下に抑えた。

当日は、その事業概要について説明を受けた。



集合写真



概要説明

○令和6年8月7日（水）

(1) 富谷市議会

調査項目：地域低炭素水素サプライチェーン実証事業について

応 対 者：企画部企画政策課

内 容： 環境省委託事業として採択された本事業は、共同事業者であるみやぎ生協の物流センターにおいて、太陽光発電による電力を用いて、水を電気分解して製造した水素を、吸蔵合金カセットに貯蔵し、生協の既存物流網を利用して、市内の家庭、店舗及び市の児童クラブ棟に配送するサプライチェーンモデルの実証事業である。

当日はその事業概要について説明を受けた後、児童クラブ、みやぎ生協物流センターに移動し、その設備を視察した。



設備説明（みやぎ生協物流センター）



設備説明（児童クラブ棟）